

「お盆の心」

千葉県 そうねいじ 總寧寺住職 てるいぶんりゆう 照井文隆

お盆の季節がやってきました。お盆とは、亡くなったあの方がご先祖様としてお家に里帰りしてくる期間です。ご先祖様とはなんでしょう？

お釈迦様は、「この世界中で自分という人間はたった一人しかいない。だから、自分という存在はとても尊いものなのだ。」と、説かれました。あなたは、この世にたった一人の大切な宝物。だから自分自身を大切にしなければなりません。あの人と同じ宝物。だから、まわりの人も自分と同じように大切にしなければなりません。この尊い大切な宝物が私たちのいのちです。人間だけではありません。動物も魚も虫も花もすべての生きているものは、みんな等しく尊いのです。

その尊い自分のいのちをずっとずっと昔から親から子へと伝えてくれたたくさんのいのちたちのことをご先祖様といいます。

伝えてくれたのは、いのちだけではありません。「元気でいるんだよ」、「しっかり生きてね」、「どうか幸せでいられますように」という思いや願いも伝えてくれているのです。

そうやって、私たちのことをいつでもそっと見守ってくれているのがご先祖様です。大切に伝え続けてきてくれたものを今度は、自分が活かす番となりました。

たった一の大切ないのちをより輝かせるためにあなたは、どう生きますか？人と競争するものではありません。伝えられた真心を忘れずに、自分にできることを無理せず少しずつでもやり続けていくこと。それが、しっかり生きるということです。だから、「安心して見ていて下さいね」、「たくさんのありがとうを送るからこれからもずっと見守っていて下さいね」と、お里帰りをしてきたあの人に、ご先祖様に、手を合わせお伝えください。それが、お盆の心です。